

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月6日
【四半期会計期間】	第53期第3四半期（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）
【会社名】	株式会社エフピコ
【英訳名】	FP CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 守正
【本店の所在の場所】	広島県福山市曙町一丁目13番15号 （平成27年1月27日から本店の所在の場所 広島県福山市曙町一丁目12番15号を上記のように変更しております。）
【電話番号】	084(953)1145(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理財務本部本部長 池上 功
【最寄りの連絡場所】	広島県福山市曙町一丁目13番15号 （平成27年1月27日から最寄りの連絡場所 広島県福山市曙町一丁目12番15号を上記のように変更しております。）
【電話番号】	084(953)1145(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理財務本部本部長 池上 功
【縦覧に供する場所】	株式会社エフピコ東京本社 （東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー 36F） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第3四半期 連結累計期間	第53期 第3四半期 連結累計期間	第52期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	125,412	127,363	161,121
経常利益 (百万円)	9,002	8,418	10,054
四半期(当期)純利益 (百万円)	5,469	5,399	6,137
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,699	6,081	6,148
純資産額 (百万円)	79,710	84,264	80,062
総資産額 (百万円)	189,734	206,475	180,476
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	132.12	130.43	148.27
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	42.0	40.6	44.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	8,834	6,498	17,981
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,741	12,132	11,766
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	35	3,513	4,120
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	15,188	14,032	16,153

回次	第52期 第3四半期 連結会計期間	第53期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	57.01	58.17

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

5. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税の増税に加え、円安の進行による食料品や日用品などの生活必需品の物価の上昇により実質可処分所得が減少しているため消費者の節約志向が強まっており、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、販売面では、新デザイン容器や新機能容器をはじめ、当社オリジナル製品（マルチF P、マルチソリッド、O P E T透明容器、新透明P P容器）は、耐油性や耐熱性等の機能面での優位性もお客様に評価いただき、リサイクル原料製品（エコトレー、エコA P E T）ともども販売数量を伸ばしております。特にP P S Aシリーズ（新透明P P容器）は、電子レンジ加熱による今までにない商品開発が可能となり、小売店での新しい売り場づくりとともに採用が広がっております。透明蓋やフードバックなどの透明容器においては、O P E Tや新透明P Pでの品揃えを充実し、従来品であるO P Sからの切り替えを進めております。

一方で、汎用製品を中心とした価格競争は今期に入り落ち着きを取り戻したものの、前第3四半期連結会計期間以降に汎用製品の一部で不採算取引から撤退した影響や、消費税増税による買い控えの影響、天候不順による消費不振等もあり、当社グループにおいて生産する製品の当第3四半期連結累計期間の売上数量は前期比101.1%、売上高は前期比102.5%となりました。

なお、四半期連結会計期間毎の製品売上数量の前年同期比の推移は、第1四半期97.5%、第2四半期101.1%、第3四半期104.4%となっております。

平成26年12月には出荷が大幅に改善し前年同月比108.4%の出荷量となりましたが、平成26年8月に運用を開始した福山クロストックセンターおよび同年11月より運用を開始した八王子配送センターなど、過去5年間に増強した物流ネットワークにより年末の出荷ピークを滞りなく乗り切ることができました。

また、当社グループ外より仕入販売する商品の当第3四半期連結累計期間の売上高は、商品調達力の強化と取扱量の増加に努め共同配送事業先も増加しましたが、グループ会社で商流の見直しを行ったことにより、前期比98.8%となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,273億63百万円、前期と比べ19億50百万円の増収（前期比101.6%）となりました。

利益面におきましては、原材料価格が前第4四半期連結会計期間からもう一段値上がりしたことにより、原材料コストが前期に比べ約9億円増加したほか、電力料金の値上りによるコスト増加が約5億円、積極的に進めている設備投資等による経費の増加が約12億20百万円となりました。他方、新製品や当社オリジナル製品の販売が好調に推移したこと、グループ全体でコスト改善に努めたこと、前期に実施した製品価格改定等により、利益改善は総額で約20億40百万円となりましたが、コストの増加をカバーするには至らず、当第3四半期連結累計期間の経常利益は、前期に比べ5億84百万円の減益となる84億18百万円（前期比93.5%）、四半期純利益は53億99百万円（前期比98.7%）、償却前経常利益では164億57百万円（前期比102.3%）となりました。

なお、四半期連結会計期間毎の営業利益の前年同期比の推移は、第1四半期83.9%、第2四半期80.3%、第3四半期93.2%となっており、第2四半期を底に回復に向かっております。

営業面では、前年度はお客様との価格改定の交渉に注力してまいりましたが、当期は、付加価値の高い新製品の開発と品揃えのスピードを加速し、当社オリジナル製品の販売構成を高めることにより、売上高の増加と利益率の向上を図っております。また「株式会社みやこひも」を平成26年10月1日より「エフピコみやこひも株式会社」としてグループに迎え、包装資材用品の販売拡大を進めております。平成27年3月11・12・13日には東京ビッグサイトにて「エフピコフェア2015」を開催し、お客様へ最新の製品情報と商品情報、そして全国の売り場情報を提案するべく準備を進めております。

物流面では、前期の九州第二配送センター・関西第一配送センターの稼働に続き、平成26年8月には福山クロストックセンターからの出荷を開始し、在庫保管効率の向上に加え出荷業務の大幅な改善を行っております。また、東日本の新たな物流拠点である八王子配送センターは、平成26年11月末にケース出荷を開始いたしました。平成27年2月にはピッキング出荷の開始を予定しており、さらに規模を拡大するために、平成27年8月の完成に向けて二期工事が進んでおります。これら物流設備投資により全国を網羅する強固で柔軟な物流ネットワークを構築することで、製品及び商品をお客様にお届けする流通全体でのコスト低減と安定供給を提供してまいります。

生産面では、従来素材であるO P S透明容器から、当社にしかないオリジナル素材による透明容器へのシフトを図るべく、平成26年4月にはO P E T透明容器のシート押出2号機及び製品成型機4ラインを増設し、新透明P P容器生産ラインの増設も進んでおります。さらに、中部P E Tリサイクル工場隣接地を取得し、回収したP E T透明容器やP E TボトルからリサイクルP E Tフレークを生産し、シート押出を経てエコA P E T製品及びO P E T製品を成型する一貫生産拠点の来年度中の稼働を目指し、工場の建設を進めております。

この他、当社の強み（価格・品質・機能）を持った新素材・新製品の研究や、製品開発のスピードアップと充実を図るべく、平成26年12月にはエフピコ総合研究所が完成いたしました。この施設は研究開発能力を向上させるのみならず、研修施設としての機能も併せ持っており、人材育成にも従来以上に注力してまいります。

平成26年6月には、西日本ペットボトルリサイクル株式会社を連結子会社とし、PETリサイクル事業の拡充を図っております。

社会的責任としての障がい者雇用の促進につきましては、平成26年12月末現在グループ全体で366名（障がい者雇用数638名）及び業務提携先に43名の雇用の機会を提供しております。

（用語説明）

マルチFP（MFP）	：-40～+110の耐寒・耐熱性、耐油・耐酸性及び断熱性に優れた発泡PS（ポリスチレン）容器
マルチソリッド（MSD）	：マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS（ポリスチレン）容器 耐熱温度+110
OPET透明容器	：二軸延伸PETシートから成型した、耐油・耐酸性に優れ、透明度も高くOPSと同程度の耐熱性を実現したPET（ポリエチレンテレフタレート）透明容器 耐熱温度+80
新透明PP容器	：標準グレードのPP（ポリプロピレン）原料からOPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110
PPSAシリーズ	：嵌合フードバック 新透明PP容器 耐熱温度+110
OPS透明容器	：従来からの二軸延伸PS（ポリスチレン）シートから成型した透明容器 耐熱温度+80
エコトレ	：スーパーで店頭回収されたPS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（平成4年販売開始）
エコAPET	：スーパーで店頭回収されたPET透明容器、PETボトル及び工場内端材を原料とするリサイクルPET透明容器（平成24年販売開始）
フードバック	：スーパーの揚げ物パイキングコーナーなどで使用される、蓋（フード）と本体が一体となった汎用透明容器
クロスドックセンター	：お客様にお届けする製品を、個別の配送トラックが在庫倉庫を廻って積込む方式にかわり、全ての出荷製品を一カ所に集め、配送ルート毎に自動ソーターで仕分けの後、配達順に積込むクロスドック方式を実現するセンター

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より21億21百万円減少し、140億32百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は、64億98百万円（前年同期は88億34百万円の資金獲得）となりました。

これは、主に税金等調整前四半期純利益83億1百万円と減価償却費80億39百万円及び仕入債務の増加55億18百万円などによる資金の増加、売上債権の増加148億8百万円及び法人税等の支払額33億82百万円などによる資金の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、121億32百万円（前年同期は77億41百万円の支出）となりました。

これは、主にOPETシート押出2号機、製品成型機4ライン等の設備導入、福山クロスドックセンター、八王子配送センター及び総合研究所の建設などの有形固定資産の取得による支出118億1百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により獲得した資金は、35億13百万円（前年同期は35百万円の資金獲得）となりました。

これは、主に長期借入れによる収入155億円と、短期借入金の純減少による支出6億84百万円、長期借入金の返済による支出59億26百万円、配当金の支払額23億13百万円及びリース債務の返済による支出30億60百万円などによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、8億3百万円であります。
なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

需要の拡大に対応するために、新たな設備の増設を決定しております。その計画の概要は次のとおりです。

(単位：百万円)

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
			総額	既支払額		着手	完了	
提出会社	中部新工場 (岐阜県安八郡 輪之内町)	P E T透明容器 生産工場の新設	11,000	-	自己資金 及び借入金	平成27年2月	平成28年3月	P E T透明容器 の生産能力が約 21%増加

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

今後の見通しにつきましては、消費税増税による消費者の動向、為替相場や原油価格の変動による原材料コストや電力料金の増減など、当社グループをとりまく経営環境には、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような状況下、当社は、新製品の開発と品揃えのスピードのさらなる加速、全国を網羅する物流ネットワークを活用した流通全体でのお客様へのコスト低減の提供及びリサイクル原料製品の販売の拡大などにより、中長期的に安定して利益を獲得できる体制を強化してまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	44,284,212	44,284,212	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	44,284,212	44,284,212	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	44,284,212	-	13,150	-	15,487

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己株式) 普通株式 2,889,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,390,200	413,902	-
単元未満株式	普通株式 4,912	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	44,284,212	-	-
総株主の議決権	-	413,902	-

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社エフピコ	広島県福山市曙町一丁目 12番15号	2,889,100	-	2,889,100	6.52
計	-	2,889,100	-	2,889,100	6.52

(注)平成27年1月27日から本店所在地を「広島県福山市曙町一丁目13番15号」に変更しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,153	14,032
受取手形及び売掛金	30,598	24,510
商品及び製品	17,810	17,109
仕掛品	78	87
原材料及び貯蔵品	2,957	3,701
その他	4,435	4,281
貸倒引当金	31	44
流動資産合計	72,001	84,678
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	40,831	49,768
機械装置及び運搬具(純額)	7,731	10,910
土地	31,945	33,256
リース資産(純額)	13,177	12,984
その他(純額)	6,955	5,619
有形固定資産合計	100,641	112,539
無形固定資産		
のれん	730	1,771
その他	1,085	1,090
無形固定資産合計	1,816	2,861
投資その他の資産	16,017	16,395
固定資産合計	108,475	121,796
資産合計	180,476	206,475
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,231	25,261
短期借入金	9,976	13,369
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
未払法人税等	1,556	1,214
賞与引当金	1,475	797
役員賞与引当金	55	32
その他	12,179	18,928
流動負債合計	59,476	74,602
固定負債		
長期借入金	26,777	33,768
退職給付に係る負債	2,465	2,521
役員退職慰労引当金	1,207	1,190
その他	10,487	10,127
固定負債合計	40,938	47,608
負債合計	100,414	122,210

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	15,843	15,843
利益剰余金	55,529	58,670
自己株式	4,939	4,941
株主資本合計	79,583	82,723
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	553	1,217
退職給付に係る調整累計額	97	82
その他の包括利益累計額合計	456	1,135
少数株主持分	21	405
純資産合計	80,062	84,264
負債純資産合計	180,476	206,475

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	125,412	127,363
売上原価	89,373	91,807
売上総利益	36,039	35,556
販売費及び一般管理費	27,278	27,963
営業利益	8,761	7,592
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	67	74
補助金収入	13	660
スクラップ売却益	178	164
その他	353	245
営業外収益合計	617	1,148
営業外費用		
支払利息	246	227
その他	129	96
営業外費用合計	376	323
経常利益	9,002	8,418
特別利益		
固定資産売却益	13	1
負ののれん発生益	-	36
段階取得に係る差益	6	-
特別利益合計	20	38
特別損失		
固定資産除売却損	29	74
段階取得に係る差損	-	80
特別損失合計	29	154
税金等調整前四半期純利益	8,993	8,301
法人税、住民税及び事業税	3,784	3,056
法人税等調整額	262	157
法人税等合計	3,521	2,898
少数株主損益調整前四半期純利益	5,471	5,402
少数株主利益	2	3
四半期純利益	5,469	5,399

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,471	5,402
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	228	664
退職給付に係る調整額	-	14
その他の包括利益合計	228	678
四半期包括利益	5,699	6,081
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,697	6,077
少数株主に係る四半期包括利益	2	3

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,993	8,301
減価償却費	7,090	8,039
賞与引当金の増減額(は減少)	812	712
役員賞与引当金の増減額(は減少)	51	23
貸倒引当金の増減額(は減少)	22	9
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	51	55
退職給付引当金の増減額(は減少)	159	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	65
固定資産除売却損益(は益)	15	73
受取利息及び受取配当金	72	78
支払利息	246	227
売上債権の増減額(は増加)	6,431	14,808
たな卸資産の増減額(は増加)	997	180
未収入金の増減額(は増加)	360	300
仕入債務の増減額(は減少)	3,461	5,518
その他	2,290	2,957
小計	14,327	9,976
利息及び配当金の受取額	72	78
利息の支払額	244	213
保険金の受取額	-	164
災害損失の支払額	-	126
法人税等の支払額	5,321	3,382
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,834	6,498
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	7,744	11,801
その他	2	331
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,741	12,132
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,900	684
長期借入れによる収入	15,000	15,500
長期借入金の返済による支出	6,951	5,926
リース債務の返済による支出	2,480	3,060
配当金の支払額	2,632	2,313
その他	0	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	35	3,513
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,127	2,121
現金及び現金同等物の期首残高	14,060	16,153
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,188	14,032

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の基礎となる期間の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から、退職給付支払ごとの支払見込期間を反映する方法に変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が124百万円減少し、利益剰余金が80百万円増加しております。また、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
投資その他の資産	66百万円	53百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	- 百万円	2,450百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
現金及び預金勘定	15,188百万円	14,032百万円
現金及び現金同等物	15,188	14,032

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月24日 取締役会	普通株式	1,345	65	平成25年3月31日	平成25年6月10日	利益剰余金
平成25年11月5日 取締役会	普通株式	1,324	64	平成25年9月30日	平成25年11月26日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月23日 取締役会	普通株式	1,345	65	平成26年3月31日	平成26年6月9日	利益剰余金
平成26年11月5日 取締役会	普通株式	993	24	平成26年9月30日	平成26年11月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間
(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	132円12銭	130円43銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	5,469	5,399
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	5,469	5,399
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,395	41,395

(注)1.平成26年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2.潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額	993百万円
(ロ) 1株当たりの金額	24円00銭
(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成26年11月26日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月5日

株式会社エフピコ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 良智 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮本 芳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エフピコの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エフピコ及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。